

明るく元気の出る町

平成8年4月1日発行・毎月1日 編集・発行 / 秋田県東由利町役場企画課

広報

ひがしゆり

HIGASHIYURI

 東由利町

1996

4

NO. 493



町イメージキャラクター
「モウ太くん」

平成8年度
施政方針

下水道整備事業 地場産業センター 本格着工へ



▲笑顔の卒業式。子供たちが健やかに育つための基盤づくりも重要課題の一つ

第一回議会定例会は三月六日に招集され、初日は阿部幸悦町長の施政方針発表、小松順之助教育委員長の教育方針発表、六氏の一般質問の後、団体営農道

整備事業工事請負変更契約を原案どおり可決しました。

翌七日の本会議では、若者町営住宅に関する条例など十五議案を原案どおり可決、総額三十八億六千三百九十二万七千円（前年度当初予算比一五・二％減）の平成八年度一般会計予算などを委員会に付託しました。

八日からは各委員会審議が行われ、最終日の十九日、収入役の選任案など六議案を原案どおり可決、閉会しました。

“わたしと終戦” あの難儀が今を築く

平成七年は、終戦五十周年の年に当たることから、全国的に、あの第二次世界大戦が何であったか改めて議論されました。わが町でもこの機会に町史を補完する意味からも、終戦五十年寄稿文集「わたしと終戦」を刊行しました。町

内外一三六人の皆さんから応募いただき、単なる懐古主義ではない文面の一語・一句に感動しました。あの真珠湾攻撃で潜水艦に乗って参加した人もおられるし、広島の原水爆に遭遇した方もおられたのです。シベリア抑留での苦勞、満州からの逃避行、残留孤児も人ごとでない手記に触れ、改めて当時の難儀さを感じた

ものです。今、当時から想像もできない社会を築き上げたわけですが、これもひとえにあの当時の皆さんの苦勞のうえに今日があることを改めて深く感じました。そしてまた、二度とあのような戦争を引き起こしてはならないと強く思ったものです。

老方・館合に下水道 全町は28年の長丁場

「山紫水明の里・東由利」のために、大変な財政投資が必要になってくる下水道整備事業にもいよいよ取り掛かる年になりました。最初処理事業区は、老方・館合地区十七自治会です。工事同意書の取りまとめをいただいている処であり、まずは順調に事業が展開できるものと考えています。

下水道整備事業は、工事費と共に将来心配される維持管理費等も考えて、基本的には町全体を農業集落排水整備事業で整備して行くことにし、計画では、平成三十六年に全町整備完了という二十八年の長丁場の事業です。この事業

は町の財政負担だけでなく、町民皆さんにも個人負担をお願いするものであり、文字通り一体となつての「山紫水明の里づくり事業」になってきます。五か年でこの地区の事業を完了したいと考えています。

五・三割の人口減 交流人口増にも努力

今回の国勢調査の結果、定住人口は五、二五二人となり、前回に比較して五・三割の減少率です。

若者定住促進奨励策はじめ定住環境づくりにも一生懸命取り組んでいる所ですが、残念ながら結果として、人口減に歯止めがかかるまでには至っていません。しかし、できることを私たちは勇気を持って

これからやって参らなければなりません。定住人口の増加策にもこれまで以上の努力を続けながら、今後は、交流人口がリピーターとして何回も来ていただけるように力を注いで行きたいものです。



▲町活性化のカギをにぎる「湯楽里」

「湯楽里」順調に展開 活性化目指し充実に

十一月七日には道の駅「黄桜の里」と温泉保養施設「湯楽里」、お食事処「やしお」が竣工、十一月九日に開業しました。わが町初めての第三セクターをつくり、施設の管理運営を委託していますが、直営ではなかなかできない事

に取り組んでいます。期待に応えて健闘しており、まずは順調な事業展開だと分析しているところですが。

利用者の皆さんからは、天井が高く空間があり、床暖房がいいと言われます。温泉の質が温まりの湯であり、腰痛や膝痛が軽くなり、湯治がわりに定期的に來てくれている人もおられます。そしてうれしいことは、社員のサービスの態度がいいと言ってくれます。まだ始まったばかりであり、課題もたくさんありますが、この施設が文字通りわが町の活性化の拠点となってくれることを心から祈念し、なお一層の充実に取り組んで行きたいと考えるところです。

健全財政に配慮 誇りの持てる町を後世に

課題は限りなく存在し、財源は限られています。地域活性化拠点施設整備事業などで、公債残高も膨らんでいます。財政健全化の指数はクリアしている訳ですが、将来の財政需要にも備えていかなければなりません。財政構造の弾力性の確保、健全性には十分な配慮をしながらの予算編成であり、また、東由利町総合発

展基本構想元年にも当たることから、それにも配慮した当初予算となっています。

もちろん申し上げるまでもなくわが町の永遠の課題

一 長寿社会を共に寿ぐために

二 山紫水明の里づくり

三 産業の振興

四 人材の育成・後継者づくり

をメインテーマにしたものです。

また町議会の予算・決算審査報告書や議会のご提言、町政座談会等で寄せられた町民皆様のご要望等、常時町民との対話の中から出て来た施策の具現化に努めた予算案になっています。

町づくりの四本柱は半永久的な課題です。寄稿文集「わたしと終戦」に見られるように、先人先輩のあのような難儀や努力の上に今日の東由利があり、それを私たち現役がしっかりと引き継ぎ、できる努力を懸命にして、より充実した、誇りのもてる東由利町にして次の世代に引き渡していきたいものです。町勢発展のため一層のご支援をお願い申し上げます。



▲施政方針発表する阿部幸悦町長

地場産業センター建設へ 建築費は6月補正で計上

地場産業センターは、コンサルタントを委託して構想の取りまとめをしている段階であり、建築関係費用は当初予算には計上できませんでしたが、六月までには整理できると考えているところです。このセンター構想は行政だけでなく、町内の事業者の皆さんと一体となつての事業になりますので、十分なる時間が必要でした。現在、十人の皆さんが構想に鋭意取り組んでいます。その皆さんには、「町では、建物本体と外装まで。内装は入居者負担に。予算額は五億円以内で、坪一、五〇〇円を越えない範囲の使用料をいただきます」と申し上げています。当初予算には、その用地造成費を計上させていただきました。

75歳以上に「湯楽里」優待券 宿泊施設は検討の年

温泉保養施設「湯楽里」も順調な滑り出しを見せている

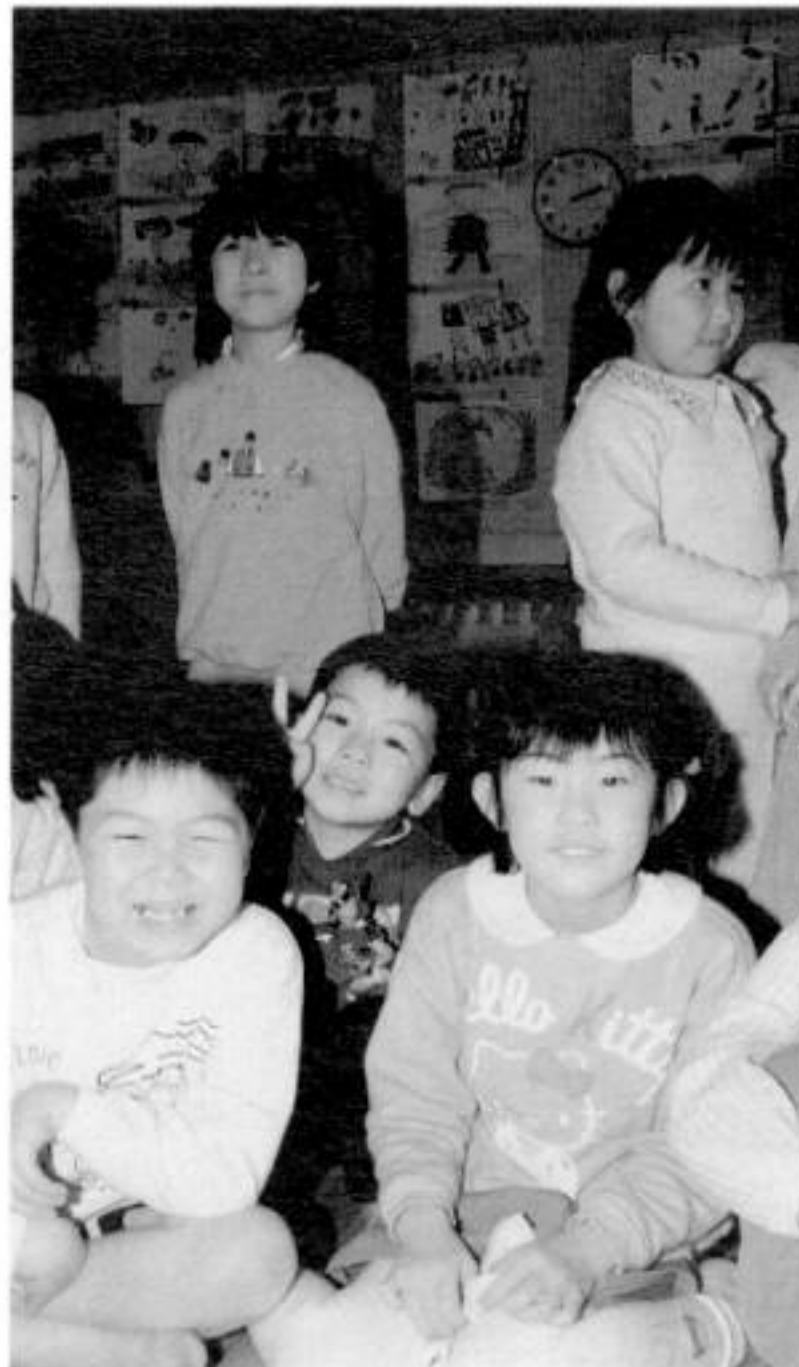
ところです。宿泊施設の整備を求める声も多く寄せられています。建築に当たっては、十分に検討し、その結果を踏まえて判断したく、基本的構想策定費を予算計上させていただきました。

また、温泉保養施設「湯楽里」は一面、福祉施設的な性格もあり、福祉現場としてどう結びつけていくかが課題の一つになっていきます。平成八年度では高齢者温泉利用助成事業として、七十五歳以上の方を対象に、十枚綴りの九十分優待券の発行を計画しています。「黄桜の里」への歓迎塔の設置、さらに本荘市側の町境には案内塔も整備する考えです。

米の生産調整に支援 子牛価格上昇に期待

農業予算では、新食糧法が昨年十一月一日に施行され、遺憾ながらその出発が「新生産調整」として農家の皆さん

に減反の増加をお願いしていくこととなります。市場原理の導入ということになるため、好むと好まざるとにかかわらず生産量を管理しているという姿勢がなければ最低価格の維持さえ困難な状況に今はあります。JA東由利ではこれを「とも補償制度」で消化して行こうとしており、町でもこれを支援していきます。



子牛価格は昨年九月頃から上昇の傾向にあります。平準化事業も徐々に成果を見せており、また、全国トップレベルの県の種牛「秋宮号」にも大きな期待をするものです。

葉タバコ振興で強く要望された増反策は、県の緊急畑作振興事業を取り入れて三ヘク

タールほどの畑地の造成整備を実施します。増田管内で一番の成績をこれからも維持してもらいたいものです。

6用排水路を整備 商工業の駐車場に助成

今年から新山村振興等農林漁業特別対策事業に着手します。農産物の加工が大きな課題の一つになっており、この

事業で加工施設のソフト事業を計画しています。また、今まで補助事業には入れなかった用排水路の整備に取り組みます。今年には六路線

になります。平成九年度から着手する中山間地域総合整備事業と合わせてかなりの用排水路の整備がなされます。農業振興には基盤の整備がまだ欠かせません。できる努力はJA東由利・農家と一体となつてやって行きます。

葎沢地区の圃場は、平成九年の事業実施にむけて今年度調査設計の予算を計上しています。

町内中小企業の皆さんは、

この景気の低迷期に大変な難儀をしておられます。事業主協議会で駐車場の除雪の支援を希望されたことを受けて、舗装になっていない所は除雪作業が難しいことから、駐車場の舗装に一部助成することになりました。この低迷期、頑張ってもらいたいものです。

久保・板戸工区用地買収へ 三ツ森山林道、順調に進捗

国道一〇七号は、懸案の久保・板戸工区が平成七年度に路線測量と地質調査が行われたところ。八年度は用地測量と用地買収、一部河川改修が行われる予定と聞いています。順調な工事の進展を期待しているところです。

八年度の県道整備では、仁賀保矢島館合線・館合バイパスが完了の予定、羽後向田館合線は、集落内の路線を決定し、県単独の事業で採択の見込みと聞いており、岩館バイパスは、路線測量に入れます。横手東由利線の笹倉トンネルは、平成八、九年で巻き立て補修をしてもらえると聞いています。

林道では、八塩二号線と宿新田線が平成八年度完成、沢内袖山線も二年目に入りまし

農業新展開に基盤充実

た。ふるさと林道三ツ森山線も順調に整備が進むものと考えます。八年度は倉・茂沢間になる見込みです。

宿の河川公園広場整備事業も順調に工事が進行しています。河川災害復旧事業と県単事業との合併施工方式で進行している事業であり、平成九年の完成を目指し、総事業費は三億五千万円を超えるものと聞いています。町分としては、トイレなどの整備があり、建設省のラブリバー制度もよく機能するようお願いしてい

きます。

いじめ相談員を設置 有鄰館の冷房を整備

いじめが大きく問題視されているところですが、このための相談員を設置したいと考え、人件費を計上させていたきました。

高瀬小学校のプールは、十二年目になり塗装がはげて子供の目に入るのではとの心配があり、幼児用プールの一元監視機能の整備と合わせて八年度整備します。大琴小学校

と八塩小学校にはパソコンを設置します。

海外研修事業は、七年度をもってヨーロッパ研修を終わりとし、八年度からは新たに五カ年を目処に中国・東南アジア・オセアニア研修にしたいと考えます。一週間程度の行程で、単独でなく近隣の町村と一緒にいける研修になればと考えるものです。

有鄰館は昭和五十一年度の完成であり、二十一年を経過、冷暖房施設も更新の必要に迫られました。今年度まず外の

機械の更新を図ります。昨年度の老方館に引き続き、大蔵館にも冷房装置を設置します。

水道管の老朽化が心配 自治会交付金をアップ

水道の漏水対策は、大きな心配をしているところです。原因の多くが配水管の継ぎ目金具の腐食であり、併せて管の老朽化が心配されています。老朽管は計画的に今から施策して行かなければならないと考えます。また、下水道整備

事業により当然水の使用量は上がってきますから、水量の確保は最優先課題の一つにもなっています。

自治会長さんには、町勢運営にご協力いただき感謝しているところです。今年度の自治会交付金では世帯数割の単価アップに加え、七十歳以上の高齢者世帯への特別加算制度を盛り込むなど運営費への配慮もさせていただきました。本年もよろしくご支援のほどお願いします。

た案
され議
決主

収入役に佐藤知泰氏

若者向けの住宅を整備

家賃は月額1万5千円

平成七年度に整備した町営住宅四戸の管理条例を定めた。入居できる人は、三十五歳以下の独身者で、町内に住所や勤務先があり、同居者のいない人。家賃は、月額一万五千円。四月一日から受付開始。

7年度一般会計を補正、52億に

平成七年度一般会計に七千三百九十五万五千円を追加し、総額を五十二億七千八百八十四万円とした。主なものは▽減債基金積立金五千万円▽土木施設災害復旧事業五千八百五十七万五千円。

奨学資金貸付基金を百万円増額

高齢者叙勲で勲六等瑞宝章を受賞された藤原虎之助氏から「奨学資金に使ってほしい」と百万円の寄付をいただいた事により、奨学資金貸付基金を増額するもの。総額一千六百万円に。

固定資産評価審査委員に小松氏

任期満了に伴い小松定雄氏（六七歳・高戸屋）を固定資産評価審査委員に新しく選任した。

収入役の選任案に同意

任期満了による収入役に、佐藤知泰氏（宇戸坂・四七歳）を選任する案に同意した。

新収入役佐藤氏の略歴



▲佐藤知泰氏

高千穂商科大学商学部卒。自営（商業）。これまで、町商工会青年部長、県商工会青年部連合会理事、本荘由利地区商工会青年部連絡協議会長を歴任。現在、町商工会、町観光協会、町社会福祉協議会の各理事の職にあり。

ごくろうさまでした



▲小松正昭氏

小松正昭収入役が三月三十一日付けで退任されました。小松氏は、平成四年四月、収入役に就任して以来四年間、役場職員としての経験をフルに発揮し、町指定金融機関を設置し、出納事務の正確性に努められるなど、財政の健全化、町行財政の伸長発展に尽くされました。

小松正昭収入役が退任

小松正昭収入役が三月三十一日付けで退任されました。

一般質問

遠藤忠平議員 ①在宅介護者への一層の支援とケア付き高齢者住宅建設の考えは②介護等の学校へ入学する生徒に助成を③人材センター設置の考えは④町定住の就農希望者に研修の場を⑤沿岸部との農機具共同利用の促進を⑥温泉施設での地場食物提供の確立を⑦買収した土地に課税するなどの実態はないか⑧夏の雪玉合戦全国大会の考えは

町長 ①在宅介護手当支給金は平成四年から町単独で実施。増額は今後の課題としたい。住宅は現状、将来を見据えて考えていきたい②奨学資金の活用などを呼びかけたい③今後の課題としたい④関係機関と情報を密にし対応している⑤作期の違う所との連携には同感。地域を越えた連携も念頭に整理したい⑥米、漬物など地元食材も取り入れており、さらに充実していく⑦公共事業による登記の遅れが一つの原因であり、本町でも早期に



▲もうすぐ田植えの時期。“農業に明るい未来を”は町民みんなの願い

登記するよう取り組んでいる。税金還付の事実はない⑧おもしろい提案。雪を逆手にとったイベントも検討したい

長沼久男議員 ①明るく元気の出る町には人づくりが不可欠。さらなる努力を②国道398号の改良見通しは

町長 ①鋭意努力する。さらなるご指導をお願いしたい②湯沢市から本町側の整備が一つの課題。要望、陳情を重ねる

小松慎一議員 ①自主流通米が下がる現状、町の施策を充実し農家に明るい見通しを②町活性化に高齢者の力を③公的介護保険制度への町の考えは

町長 ①農家のために最大限

何ができるのかをJA東由利と協議しながら努力して行きたい②同感。高齢者がさらに生きがいをもって生活できるよう施策を充実して行く③高齢化社会を支える財政的な裏付けは重要な課題。公的介護保険制度はその一つと考える

小松久徳議員 ①結婚難へ町の真剣な取り組みを②「湯楽里」のバスを高齢者等に弾力的な運行を③携帯電話が使えるよう対策を

町長 ①若者の結婚に対する価値観の変化もあり難しい問題。どんな形で支援できるか考えたい②利用者の平準化の点から何らかの施策を考えた

い③道の駅完成により町外からの人も増えている。整備を前提に調査したい

佐々木長円議員 ①老方、館合地区の下水道整備の同意状況、着工の時期、自己負担工事費の目安は②水道未給水地区の解消を③国道107号の整備により町道となった道路の一層の整備を④イベント会場に通ずる道路周辺の環境整備を

町長 ①三月五日現在で八四の同意。九月頃の着工を目指している。自己負担の工事費用は、最低でもトイレと生活雑排水部分の工事で三十六万円と聞いている②配水池の増設などで対応したい③安全

管理には万全を期している④積極的に整備していきたい

小松賢議員 ①減反の目標達成には農家の理解を最優先すべき②町内産米の売り込み方法は③町内湧水の整備とマップの作成を④県立大学を本荘市一か所に設置するよう努力を

町長 ①農家の理解を得られるよう努力していく②JA東由利の販売ルート充実させるべき③モデル的なものから整備したい。マップは検討材料としたい④本荘に誘致できただけでも大きな成果。地域の核となるよう努力している

町功労者（元教育長）

佐々木君三氏逝去



町功労者で元教育長の佐々木君三氏が、病氣療養中のごとこ三月六日逝去されました。八十歳。

氏は、昭和三十五年、東由利村教育委員に就任、四十二年十月から五十二年九月までの十年間は教育長として教育

行政を担当しました。この間、特に学校統合の推進や教職員の他地域との交流に努力されるなど本町教育の振興充実に寄与されました。

また、下郷村農業協同組合理事、下郷村農業共済組合監事、東由利村農業共済組合監事の要職も歴任されています。

昭和五十九年には、町功労者表彰を受けられています。

平成8年度 町の台所

町民1人あたりに

706,900円

平成8年度一般会計予算

歳入

(単位：千円/△・減)

項 目	本年度予算額	前年度予算額	増減率 (%)
町 税	275,681	266,196	3.6
地 方 譲 与 税	82,000	79,000	3.8
利 子 割 交 付 金	5,000	6,000	△16.7
自動車取得税交付金	35,000	35,000	0.0
特別地方消費税交付金	10	10	0.0
地 方 交 付 税	2,318,565	1,939,270	19.6
交通安全対策特別交付金	1,100	1,200	△ 8.3
分担金及び負担金	57,233	52,144	9.8
使用料及び手数料	12,847	11,559	11.1
国 庫 支 出 金	186,236	181,748	2.5
県 支 出 金	413,981	312,462	32.5
財 産 収 入	9,819	32,616	△69.9
寄 付 金	10	10	0.0
繰 入 金	30,690	321,026	△90.5
繰 越 金	90,000	90,000	0.0
諸 収 入	39,155	49,674	△21.2
町 債	306,600	1,176,200	△73.9
合 計	3,863,927	4,554,115	△15.2

歳出

(単位：千円/△・減)

項 目	本年度予算額	前年度予算額	増減率 (%)
議 会 費	84,026	87,296	△ 3.8
総 務 費	444,949	1,455,472	△69.4
民 生 費	431,934	397,611	8.6
衛 生 費	225,277	217,077	3.8
労 働 費	12,655	9,266	36.6
農 林 水 産 業 費	1,335,647	1,001,192	33.4
商 工 費	17,083	14,078	21.3
土 木 費	249,372	315,751	△21.0
消 防 費	159,304	158,701	0.4
教 育 費	311,340	346,364	△10.1
災 害 復 旧 費	3,290	300	996.7
公 債 費	585,000	542,477	7.8
諸 支 出 金	1,050	5,530	△81.0
予 備 費	3,000	3,000	0
合 計	3,863,927	4,554,115	△15.2

平成8年度特別会計予算

(単位：千円/△・減)

会 計	本年度予算額	前年度予算額	増減率 (%)
国民健康保険	443,965	465,640	△ 4.7
老人保健	686,219	532,806	28.8
農業集落排水事業	616,653	0	—
簡易水道	110,894	144,749	△23.4
特別養護老人ホーム	237,842	237,524	0.1
大平スキー場	21,982	18,500	18.8
玉米財産区	2,985	1,048	184.8
※黒瀬診療所	0	2,471	—
合 計	2,120,540	1,402,738	51.2

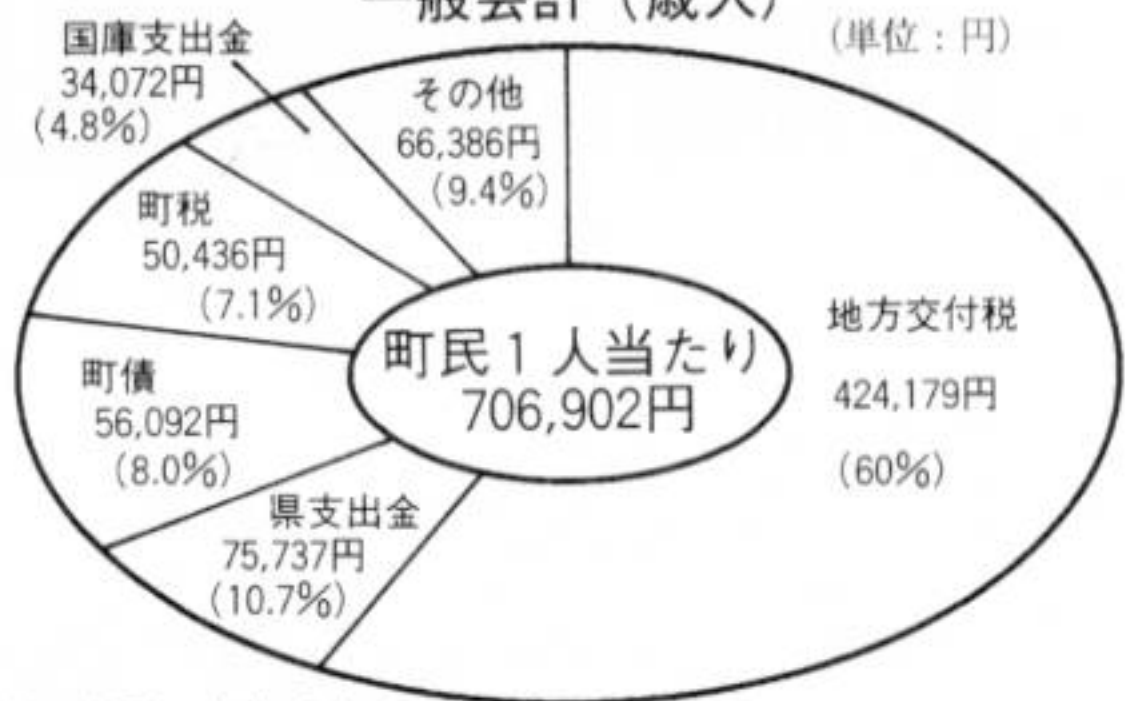
農業集落排水事業特別会計を設置

平成八年度一般会計予算の総額は三十八億六千三百九十二万七千円で前年度当初と比較すると六億九千八百八十八円、一五・二％の減。黄桜温泉「湯楽里」、お食事処「や

しお」の完成など大型事業の完了が減額の要因となっています。七つの特別会計では、黒瀬診療所特別会計を廃止し、八年度から本格着工となる下水道整備のため、農業集落排水事業特別会計を設置しました。この特別会計には、一般会計から三億五千九百五十万五千円を繰り出し、総額が六億一千六百六十五万三千円。汚水処理施設の設計費と調査測量、上通、中通、下通、横小路、新町の一部の管工事四千四百円が予定されています。

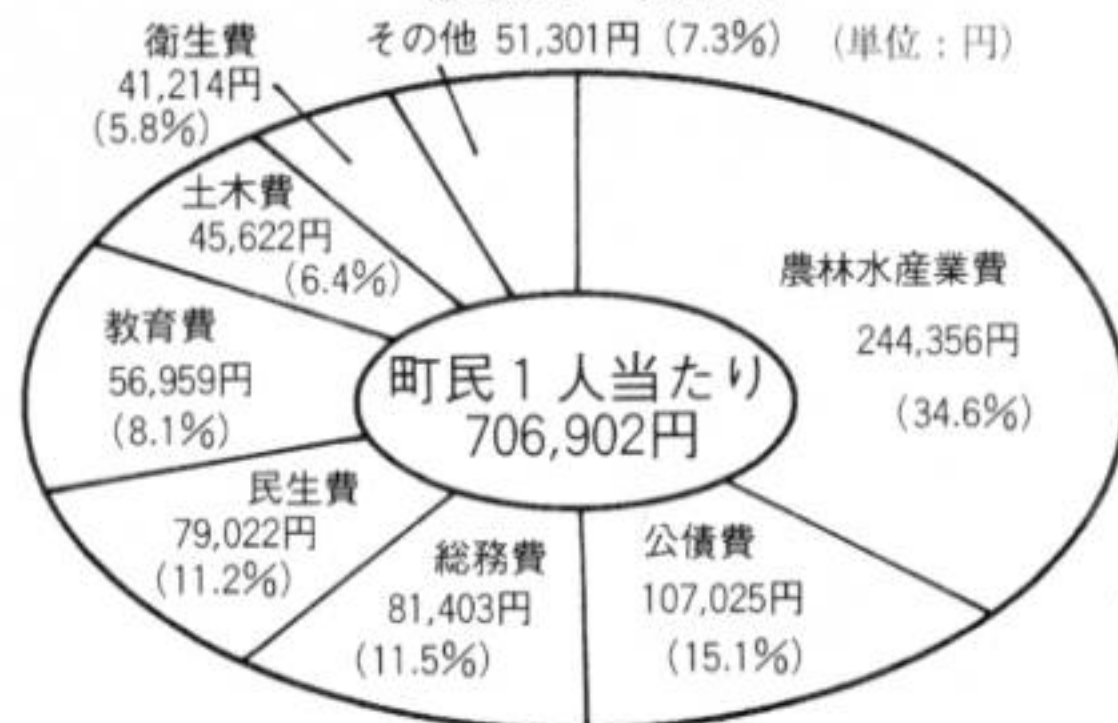
一般会計（歳入）

(単位：円)



一般会計（歳出）

(単位：円)



総務委員長の予算審査報告

消防団対策に全力を

平成八年度予算審査での総務委員長の指摘事項は次のとおり。

一、所有権移転登記の遅延から、三百件余の町取得地につき従前の所有者に課税されている。法務局の処理能力にも一因があるといえ、納税者の意に配慮し速やかに対策を講ずべき。

二、町消防団員の欠員補充が課題。団員確保が困難な時だけに組織機構の見直しを含め、士気の低下を来さないよう十分な配慮を。

三、県の新規就農促進事業で本町が受け入れた就農者の営農状況を見る限り、目的と期待に大きく反した状況。営農意欲の喚起を促しつつ町の支援策に再検討を加えるべき。

四、各課・機関の連携による住民サービスの高揚を要望し続けて来たが、未だその趣意が十分浸透していない。再度庁内各課・機関の横断的な連携充実を望む。

「明るく元気の出る町」を合言葉に

平成17年を目標とする町総合発展基本構想

「ぬくもりあふれる、ときめく町」を目指す



▲大切にしたい。子供たちの笑顔

保健福祉

健康と生きがい
大切にする福祉の町

保健福祉では、高齢者福祉、児童福祉、生涯を通じた健康づくりなど、七項目に分類されています。

平成十七年度（西暦二〇〇五年）を目標年次とする東由利町総合発展基本構想「明るく元気の出る町21C計画」が三月議会で議決され、平成八年度からスタートします。

この基本構想は、「ぬくもりあふれる、ときめく町」を基本理念に、町づくりの基本として①長寿社会を共に寿ぐ

町づくり（保健福祉）②山紫水明の里づくり（定住環境）③活力ある産業の振興（産業経済）④次代を担う心ゆたかな人づくり（教育文化）の四本柱を基に、地元定住やU・J・Iターンの促進などを進めることによって、人口減少幅の縮小を図り、平成十七年の人口を五、二〇〇人と想定

このうち、高齢者福祉では、本町が全国よりおよそ二十年先行した高齢化社会を迎えている中、健康と生きがいづくりに重点が置かれています。

東光苑、いちよう館を福祉の拠点と位置づけ、シルバー人材システムの整備や学習、交流、ボランティア活動の支援をはじめ、デイサービス利用を前提とした

虚弱者向け集合賃貸住宅の整備などが盛り込まれています。

また、児童福祉では、出生率の低下と共に児童数の減少傾向が見られ、保育園の定数見直しや保育体制、施設運営等が課題とされている中、保

しています。

また、これと合わせて構想を具体化するための基本計画も策定されました。

この基本計画には、町づくりの四本柱を軸に、高齢者総合福祉サービスシステムの整備、公営住宅の整備と宅地開発、雇用環境の整備と人材確保、総合文化施設の整備など

育相談や指導事業などの充実と共に保育ニーズに即した施設整備への支援が計画されています。

「自分の健康は自分で守る」との考えに立った生涯を通じた健康づくりでは、総合的保健活動の拠点となる施設整備が大きな課題となっています。将来的には、保健福祉センターを整備し、コンピューターを

定住環境

恵み豊かな自然と
共生する触れ合いの町

定住環境の整備では、道路、簡易水道、下水道、住宅、消防、防犯など生活に密着する十四項目があげられています。

車を唯一の交通手段とする本町では、道路整備は重要課題の一つ。国、県道では、東北横断自動車道と日本海側を

十三項目の主要プロジェクトが盛り込まれているとともに、高齢者福祉から健全な財政運営にいたるまで、四十項目について、現状と課題を取り上げながら、向こう十年間の基本的方向と基本施策が示されています。

基本構想と基本計画の概要をお知らせします。

活用した「個別健康管理情報システム」の整備、検診の受診後や通院後の事後指導、訪問指導の徹底、愛育班活動を中心とした実践活動の充実が盛り込まれています。

医療面では、在宅医療の促進、広域消防事務組合や医療機関との連携のもと、救急患者の搬送体制の改善、充実を目指しています。

結ぶ国道107号の早期整備、国道398号と五本の県道の充実を最重要課題に位置づけ、町道の舗装率百パーセント、通学路の歩道設置などを目標としています。

簡易水道、下水道の整備では、二十八年の長丁場となる下水道整備の推進はもちろん、東由利水道の老朽導、配水管の計画的整備や未給水地区解消に向けた拡張整備などが盛

主要プロジェクト

①高齢者総合福祉サービスシステムの整備

▽施設福祉から在宅福祉、介護支援等総合福祉サービスシステムの整備充実に努めます。

②個別健康管理情報システムの整備

▽町民の健康づくりと疾病予防にも対応できる個別健康管理情報システムをつくりまします。

③生活排水処理施設の整備

▽きれいな水、清潔で安全な居住環境を確保するため、農村下水道を整備します。

④町営住宅の整備と宅地開発

▽若者の地元定住の促進とU・J・Iターン支援として町営住宅、分譲宅地を整備します。

⑤情報通信基盤の整備

▽移動通信基盤や共同受信施設の設置を推進し、情報システム近代化を検討します。

⑥中山間地営農形態の確立

▽農業を基幹産業として発展させていくため、プロ農家、生活型農家等特性にあった営農形態の確立を推進します。



⑦雇用環境の整備と人材確保

▽圏域市町村と連携を取り、効果的な企業誘致の推進、人材確保に努めます。

⑧内発的産業の創出

▽特色ある食文化の創出を図り、土産品の研究開発・改善を促進します。

⑨地域間交流事業の推進

▽豊かな自然や伝統文化、地域資源を媒体に多種多様な地域間交流を推進します。

⑩八塩いこいの森の整備

▽八塩いこいの森周辺を自然を活かした滞在型観光エリアとするよう施設を整備します。

⑪地域活性化交流拠点の整備

▽道の駅周辺に都市住民との交流施設、イベント広場、親水施設の整備を推進します。

⑫総合文化施設の整備

▽先人の顕彰、文化財の展示など、多様な文化機能を併設した施設を整備します。

⑬図書館の整備

▽県立図書館や管外図書館等とのネットワーク機能を充実し、学習活動を支援します。

り込まれています。さらに、生活様式の多様化、下水道の普及による水需要に対応するため、水源、水量の確保にも万全を期する考えです。

自然環境の保全では、河川愛護協会を中心とした河川清掃運動の推進や自然保護、愛護の意識高揚に努め、併わせて、畜産の悪臭対策として、家畜糞尿処理施設や畜産団地整備などが検討されます。

若者定住対策の一環としての住宅整備では、町営住宅の建設とともに、宅地開発を含めた住宅供給事業などが盛り込まれています。

消防、防犯対策では、住民の生命と財産を守るため、消防団員の確保に努める一方、消防機械器具、施設の充実強化とともに、住民の隣人互助の精神を基本とした自主防災組織の育成が盛り込まれています。

す。また、消防団緊急伝達システムの有効活用やファクシミリ、パソコンなどを利用した情報網の整備を充実し、災害などへの十分な対応が図られるよう整備して行く考えです。

産業経済

創造と活力に満ちた産業を拓く町

活力ある産業振興では、基幹産業である農業の振興をはじめ商工業の振興対策など七項目にわたってその基本的方向が示されています。

農業振興では、立地条件に合った圃場整備の推進、水田汎用化の基盤づくり、農作業の受委託、農地の集団化、団地化などによる農地の利用集積、土地利用の高度化推進が基本施策にあげられています。また、地域農場型生産組織等

の育成や農業経営体の法人化推進を図る一方、稲作を中心にミニトマト、馬鈴薯などの推進作物を組み合わせた質の高い複合経営や施設型農業の普及を促進し、足腰の強い周年型農業の確立を目指しています。畜産では、ハイテク技術の導入や優良雌牛の地域内保留を積極的に推進し、低コスト経営を促進します。

また、林業では、林道、作業道を整備し林業活動の効率性を促進する一方、国産材時代の到来を見込み、良質秋田スギなど豊かな森林育成のため、保育、間伐施策の推進があげられています。

工業振興では、若年人材の育成と定住化を促進するため、圏域市町一体となった企業誘致への取り組みやU・J・Iターンの促進など広域単位での環境整備に重点を置いています。

ます。商業活性化では、消費者ニーズに対応した商業形態、共同店舗化の基盤整備、単なる買い物でない諸機能の充実と公共的機能の調和した環境整備が盛り込まれています。

教育文化

共に学び文化の香り高らかな町

町づくりは、「人づくり」に始まり「人づくり」に終わると言われています。この人づくりをメインとした教育文化対策では、生涯学習、芸術文化、スポーツなど七項目があげられています。

生涯学習の推進では、高度な情報を提供、発信できる情報通信ネットワークの整備、人材バンク制度を核とする人材資質の向上など自ら学ぼうとする意識高揚があげられています。

学校教育の振興では、児童数の減少が課題とされる中、国際化に対応できる人材育成、児童、生徒一人ひとりの個性や自主性、創造性を尊重した教育を目指しています。また、生徒指導の充実や家庭との連携強化などにより、登校拒否、いじめなどの未然防止への努力も盛り込まれています。

芸術文化面では、総合文化施設整備をはじめ、多種、多様な芸術文化を鑑賞できる機会を設けるなど、文化に対する意識の高揚がメインとなっています。

スポーツ面では、台山地区の既存スポーツ施設などを核とし、広く町民の参加を促せるようなスポーツ行事の提供や新たなスポーツの導入、普及を中心に「生涯スポーツ」の推進があげられています。



日本脳炎の予防接種を受けよう

県では、これまで任意だった日本脳炎の予防接種を定期的な予防接種に切りかえ、平成八年度から県内各市町村で実施することになりました。接種時期は、生後六か月から九十か月（七歳六か月）となっており、町では、三歳児を標準に行います。また、この期間の接種料金は町が負担します。

生後6か月から7歳半が接種時期

日本脳炎は、ウイルスによって起こる感染症で、人から人への感染ではなく、コガタアカイエカを媒介して伝染します。力の発生する七・九月に流行し、感染すると高熱が出て、死亡率は約三〇％。命をとりとめても半数近くの人が知能や精神、運動神経に重い後遺症を残す病気として知ら

れています。

県では、昭和五十四年以降、日本脳炎の患者の発生がなかったことなどから、日本脳炎予防接種を任意接種として扱ってきましたが、①日本脳炎流行予測豚採血結果で、平成六年度の県内豚のウイルス保有率が五五％と高く、厚生省から「日本脳炎ウイルス汚染が推定された地域」とされたこと②全国的には死亡者の例が報告されており、国内、海外

を問わず多発地帯への旅行が増え、感染の恐れがあることなどから、平成八年度からB・C・G、風しん、三種混合ワクチンなどに加えて定期の予防接種とすることにしたものです。

町福祉課では「標準的な時期に当たる三歳児に通知し、受診を進めて行きたいと考えている。また七歳六か月までは、定期の予防接種として受けることができるので、子供たちの健やかな成長のためにも接種を心掛けてほしい」と話しています。

佐々木氏、藤原氏に高齢者叙勲

満八十八歳以上の方を対象にした高齢者叙勲で、本町の



▲佐々木宗雄氏



▲藤原虎之助氏

佐々木宗雄氏に勲五等瑞宝章、藤原虎之助氏に勲六等瑞宝章が贈られました。

佐々木氏は、大正十一年、老方郵便局勤務を皮切りに、郵政業務に携わること通算四十余年、昭和十五年十二月からは宿郵便局長に就任し、退職された昭和四十六年九月まで地域社会安定に貢献されました。

温厚な人柄で、地域住民の信望も厚く、郵便局退職後も

良き相談相手として親しまれています。

藤原氏は、昭和二十一年から二十余年、村内小学校に奉職し、教員として、小規模へき地教育の振興に尽くされました。

また、昭和四十三年からは、十二年間、議会議員として、地方自治の振興、教育、産業基盤の整備に貢献されました。

昭和六十一年には、町功勞者表彰を受けられています。

戦没者等の遺族へ特別弔慰金

申請手続きはお早めに

町では、戦没者等の遺族に支給される特別弔慰金の申請を受け付けています。

弔慰金は、終戦五十年を機に、国が改めて弔意を表すため戦没者等の遺族に支給するもので、申請期限は平成十年三月三十一日。額面四十万円、十年償還（無利子）の記名国債で交付されます。

受給できる人は、満州事変開始の日（昭和六年九月十八日）以後の戦没者等の遺族で、平成七年四月一日現在、恩給法による公務扶助料、遺族援護法による遺族年金等を受けることができる人がいない場合に限られます。

特別弔慰金を受給できる人の順位や受給資格など、詳細は役場福祉課福祉係（☎69-2118）まで。

『湯楽里』入湯者5万人達成

佐藤さんに優待券



▲めでたく5万人目となった佐藤トミさん(写真・左)

株式会社黄桜の里は、開業以来百五日目となる二月二十九日、黄桜温泉「湯楽里」で入湯者五万人を達成、五万人目のお客さんに社長の阿部幸悦町長が特別優待券などの記念品を贈りました。

同社では当初、「湯楽里」の利用者を月一万人程度と見込んでいましたが、一月には約一万二千人が訪れるなど、見込みより一か月ほど早く五

万人に到達。本荘市や羽後町、雄物川町など国道107号沿線地域からの利用者が町内を上回り、町内外から土、日、祝祭日を中心ににぎわいをみせています。

五万人目のお客さんとなったのは、善徳の佐藤トミさんで「近くなのでよく利用しており、今回で七回目。まさか五万人目になるとは思わずびっくり。風呂に入る前から汗がでてきた」と話していました。

教職員異動

(敬称略)

【八塩小】

《転出》▽教頭・和田捷治(亀田小・校長)▽横田宏(町教育研究所)▽佐貫要(町教育委員会スポーツ主事)《転入》▽教頭・宮塚トミ子(鶴舞小)▽鎌田晋二(岩谷小)▽講師・安倍正

【高瀬小】

《転出》▽小島弥恵子(岩谷

【大琴小】

小)▽丸山隆(県教育委員会)《転入》▽斎藤康子(上郷小)▽鈴木貴子(新採用)▽黒澤桂一(新採用)

【東由利中】

《転出》▽教頭・菊地鐘(釜カ台小中学校・校長)▽石橋明(院内小・教頭)▽梶原知子(金浦小)▽工藤勝子(退職)《転入》教頭・佐藤恭一(象潟小)▽大平涼子(金浦小)▽菅原美保(鶴舞小)▽講師・阿部貴彦

《転出》▽芹田亨(本荘北中)▽大滝優子(仁賀保中)▽阿部武弘(矢島高)《転入》▽

警察官異動

東由利駐在所

《転出》▽所長・嵯峨義之(秋田署)《転入》▽所長・藤原光夫(秋田署)

沢目農地の有効利用を

認定農業者会 学習会



▲活発な意見交換が行われた学習会

学習会では、最初に、県、町、JA東由利の平成八年度新規農業施策の概要を担当課長が説明。引き続き、「遊休農地の流動化と利用集積」を

認定農業者協議会が設立され、認定農業者相互の情報交換と連絡協調が図られて来ました。

テーマに意見交換が行われました。

この中で参加者からは「認定農業者になれば土地集積が簡単に進むと思ったが...」「農地の流動化と一口に言うが、結局は沢目農地の有効利用がカギ。条件の悪い土地をどう経営に取り組むかが大事」などとした意見が出され、土地集積と沢目農地の有効利用、農地の荒廃防止で活発な意見交換が行われました。

東由利 トピックス

大琴小が米消費で功労賞
特色ある米飯給食が評価

平成七年度米消費拡大推進
研修会が二月二十三日、秋田



▲右から田口昌子先生
三浦ムツ子調理員
小園貞雄校長

市で行われ、本町の大琴小が
米飯給食優良団体として功労
賞を受賞しました。県内の小
学校では唯一の受賞。

大琴小は、昭和五十四年十

二月から給食を
開始。床に水を
流しながら調理
する従来の方法
から一般家庭の
ように流し台の

中でのみ水を使う「完全ドラ
イシステム」を県内で初めて
採用。病害虫が発生しにくく、
環境衛生面でも大きな効果を
発揮しています。

また、米飯給食の日数が週
五回と県平均（三・二回）、
全国平均（二・六回）を大き
く上回っていることや米飯の
メニューに子供たちの意見を
取り入れるなど、特色ある米

飯給食に取り組んでいること
が高く評価されました。

研修会では、表彰式の後、
同小の田口昌子養護教諭が
「年々児童数が減少して行く
中、家庭的雰囲気重視した
給食を心掛けています。今後も、
ご飯の良さを再認識できる食
事を子供たちと楽しめるよう
努力したい」と米飯給食の重
要性を強調しました。

芸術文化、スポーツで
個人、団体を表彰

平成七年度町スポーツ栄
賞、芸術文化奨励賞の表彰式
が三月十五日、有鄰館で行わ
れました。

スポーツ栄賞では、四
個人、一団体が、芸術文化奨
励賞では六人が表彰され、受賞
者は喜びを新たにしていまし

スポーツ栄賞受賞者

【個人の部】

《個人競技》▽佐藤真二（大
琴小六年、郡市陸上選手権大
会男子一〇〇メートル走第一位）、
▽大庭優子（本荘高三年、県
高校総合体育大会陸上競技大
会女子三、〇〇〇メートル走第一位）



▲スポーツ、文化の活躍を讃えた表彰式

《団体競技》▽小松和也（由
利工高一年、県高校新人バス
ケットボール選手権大会第二
位）▽遠藤友和（由利工高二
年、県高校新人バドミントン
大会学校対抗第一位）

【団体の部】

▽東由利選抜ゲートボールチー
ム（全国選抜ゲートボール大
会男子の部秋田県予選大会第
一位）

芸術文化奨励賞受賞者

▽阿部義直（沼、俳句部門功
労賞）▽小松徳蔵（湯出野、
同）▽小松武（五海保、県美
術展覧会写真の部入選）▽石
綿沙織（西目高三年、同展覧
会デザイン部の部入選）▽小松
幸子（中通、同展覧会工芸の
部入選）▽佐藤鉄雄（寺田、
同）



▲30人余りが出席した交流会

袖山地区のお年寄りが交流
70年前のおひなさまを披露

袖山、須郷、大吹川地区の
在宅老人を対象とした交流会
が三月十二日、袖山の畠山卓
三さん宅で行われました。

交流会は、町社会福祉協議
会が福祉支援とボランティア
組織の育成をねらいに七年度

初めて実施。袖山地区をモデ
ルに地域婦人の協力を得て年
四回のプログラムで行われま
した。

七年度最後の交流会となっ
た当日は、地区のお年寄り、
町社会福祉協議会役員など
三十人余りが出席。会場の畠
山家では、大正十三年ころに
購入されたおひなさまが、傷

みもなく当時の姿そのままに
飾られました。

参加者らは、

「七十年前の
ひなかざり」
を前に、ボラ
ンティアの方々
の手作り料理
を楽しみなが
ら、歓談には



▲70年前のひなかざり

なを咲かせていました。

ハッスルプレー続出

雪上での野球満喫

秋田県選抜雪上野球大会が二月二十五日、勤労者野球場で行われ、参加した八チームの選手が珍プレー、好プレーを繰り広げました。

同大会は、「雪に親しみ冬を楽しもう」と東由利をおもしろくする会（小野克弘代表）

が主催して始めたもので、今年で五回目。硬式のテニスボールを使い、「進塁はヘッドスライディング」、「走塁中、体に送球やけん制球を受けたランナーはアウト」など雪



▲女子チームも精一杯がんばりました

上ならではのルールが取り入れられ、「野球経験がなくても楽しめる」大会として人気を集めています。選手たちはゴミ袋をポンチヨ替わりに

着込むなど思い思いの服装で試合に臨み、雪上ならではのハッスルプレーを展開。フライが上がれば雪に足を取られ、揚げ句の果てに雪の中にボールが消えるハプニングや走っている最中に足を取られ転倒する選手も見られるなど、会場内は終始歓声が飛び交っていました。

伊東トクミさんに

日本家族計画連盟会長賞

本町蔵新田の伊東トクミさんが、長年にわたる母子保健事業での功績が評価され、日本家族計画連盟会長賞を受賞しました。

伊東さんは、昭和二十二年、地元で助産所を開業。当時は、戦後の混乱期で物資が不足し

ていたことや医療機関にも恵まれなかったことなどから、昼夜を問わず助産婦として活動しました。また、集落ごと



▲伊東トクミさん

の訪問指導に積極的に関わり、妊産婦、新生児のケアに努めています。現在は、保健所の嘱託助産婦として、妊産婦、新生児のケアに努めています。

向き、妊娠に対する正しい知識と家族計画や栄養面など衛生教育を率先して実施しました。現在は、保健所の嘱託助産婦として、妊産婦、新生児のケアに努めています。

標準賃金1万8千円に

町建設技能組合

町建設技能組合（阿部悟組合長）の第三十六回定期総会が三月二十三日、大蔵館で行われ、標準賃金、平成八年度の事業計画などが決められました。

平成八年度の標準賃金は五百円引き上げられ、一万八千円に決められたほか、労働時間を午前八時から午後五時三十分まで、うち午前、午後十五分の休憩、昼休み一時間とする平成六年度からの取り決め事項の再確認などを満場一致で採決しました。



2月29日、畜産講演会。130人余りが出席。由利畜連の矢嶋友喜参事が「牛肉の流通と子牛生産」と題して講演した。



3月17日、バスケットボール大会。13チームが参加。ハイレベルな試合に、観客から大きな声援が送られた。

本荘地区危険物安全協会設立

消防記念日の三月七日、本荘地区危険物安全協会が設立され、県の支部から地区協会として独立しました。同協会



3月18日、機能訓練教室閉講式。10人が出席。16回全部に出席した畠山ハルヨさん（茂沢）に皆勤賞が贈られた。

HIGASHIYURI

東由利の話題

TOPICS

町の宝もの

48

精 英 樹 (スギ)

国の林木育種事業で昭和三十三年、三十四年、全県で七十本の精英樹が選抜され、本町にも四本あります。

(下表)

精英樹は、同じ土壌条件の所に同時に植栽した中で、特に優れた成長をした木をいい、選抜基準は①樹高や太さが周辺の木に比べ格段に大きく標準以上②枝落ちが良く真つすぐ③病害虫の被害を受けていないーなどです。



この精英樹の挿し木苗は、河辺町の県林業技術センターで植栽され、生育状況を観察中。「中」程度の評価を得ています。

(文・畑山昭二)

精英樹名	所在地	樹齢	樹高	所有者(敬称略)
由利七号	黒瀬字沢口	33(年)	26(m)	小松正之助(向田)
由利八号	館合字喰沢	58	33	小松榮男(宇戸坂)
由利(号)	館合字滝ノ沢	47	28	小松榮男(宇戸坂)
由利二号	館合字岩井戸	57	34	佐藤与吉郎(館西)

※樹齢、樹高は、昭和33、34年頃の数字

業より 林だ スギ花粉症

毎年春先、スギ花粉症が問題になり、何とも割り切れぬ思いになります。今年には花粉の発生量が少ないと予測されています。

スギ花粉は、七月に雄花ができて秋に花粉をつくり、翌年の春に飛散を始めるのです。スギ花粉症とは、花粉が体内に入ってからアレルギー疾患のことで、鼻水、鼻づまり、くしゃみ、目のかゆみなどの症状がでます。この

花粉症は昭和三十八年頃に初めて確認されたもので、その後年々増えてきました。花粉症急増の原因は、花粉生産の多い三十年生前後のスギ人工林が増えて花粉量が多くなったことと食生活の欧米化による体質の変化、自動車の排ガスによる大気汚染などが誘因ではないかと言われています。

林野庁では、防除対策として、花粉生産の少ない品種選抜や雑花多産木の間伐、枝折など施業による抑制や薬剤による花粉生産抑制などの研究を進めています。(町林業懇話会長 佐藤恒悦)

子供の健康を願って

保育園の入園を機会に娘を歯医者さんに受診させた。幸いムシ歯はないと言われ、まずは一安心。

私自身、小さい頃からムシ歯に泣かされ、前歯までムシ歯を作ってしまった。せめて子供には一本でも多く健康な歯を残してほしいと願っている。多くのお母さんたちが、苦い思い出はないにしろ、笑顔と一生の健康のためにも歯を大切にしたいと願っていることだろう。

その点でも町全体で歯の健康を考えている東由利町の取り組みはすばらしいと思う。

虫歯 なんて ないもん

2歳児健診より
()内は保護者

の 歯 けんこう

おかげで十二歳児の虫歯保有率の低さは、県内でもトップクラスと聞いている。

私の町内で集まる機会があると、善意でまわりの子供たちに甘いおやつを配るお母さんを見かける。(そのお宅の子供は残念ながらニコッとした口もとが全部ムシ歯である)ここ東由利にはこんな善意はあり得ないだろう。

町ぐるみの熱意に込めるよう学校給食でも①象牙質を作るカルシウム・ビタミンC②エナメル質を作るカルシウム・ビタミンA③歯ぐきを作る良質のたん白質を含む食べ物を十分にとり④よくかむ食事ーを積極的に取り入れていきたいと考えている。

(東由利中 鈴木多喜子先生)

小笠原朋幸くん
蔵新田(豊和さん)



佐藤淳也くん
蔵(和弘さん)



高橋翼くん
山崎(良浩さん)



大日向幸樹ちゃん
小野沙耶加ちゃん
祝沢(房範さん)



遠藤智美ちゃん
小倉(薫さん)



阿部裕貴くん
小倉(文造さん)



高橋真那ちゃん
久保(時夫さん)



高橋葵ちゃん
五海保(一心さん)



畑山淳奈ちゃん
大琴(敏則さん)



白銀に歓声響く



▲スリル満点のスノーモービル。慣れしだいグングンスピードアップ

イベント盛りだくさん

スノーモービル試乗会・生卵キャッチボール・カップヌードル早食い……

八塩
元気クラブ

内容の充実〃に意欲



生卵を使ったキャッチボール。力加減が大きなポイント



まずは腹ごしらえ。参加者は無料サービスのとん汁に舌づつみ



カップヌードルの早食いにはたくさんの子供たちが参加。味わって食べる人、記録をねらう人などさまざま

早春八塩げんきまつりが三月十日、八塩いこいの森で行われ、子供たちや家族連れなどでにぎわいました。げんきまつりは、スノーモービル愛好者などで組織されている八塩元気クラブ（佐藤一廣会長・会員十五名）が昨年から行っているもので、今年は、スノーモービル試乗会、生卵キャッチボール、カップヌードルの早食いなどが行われました。

開会式では、佐藤会長が「雪に親しみながら、今日一日思いっきり楽しんでほしい」とあいさつ。のろし替わりにペットボトルロケット三台が打ち上げられ、まつりを盛り上げました。メインとなるスノーモービル試乗会には、会員や由利町、本荘市などの愛好者の協力を得て、二五〇―一六〇〇ccのスノーモービル十二台が準備されました。愛好者たちが整備した約一歳のコースをデモンストレーションした後、無料試乗会へ。最初はゆっくりとスタートしていた参加者も雪けむりを上げな



今、流行のペットボトルロケットは人気のま

が走りはじめ、スピードとスリルを体感していました。

また、ギネスブックで五〇分四秒の公認記録がある生卵キャッチボールには、子供たちや親子ペアが参加。生卵を三個まで使用でき、卵を割らないでキャッチした距離を競うもの。ただし、生卵を割った時点で競技を終了すると記録がゼロになることから、どこでやめるかが大きなポイントとなります。ちなみに最高記録は、四八メートル四〇センチ、世界記録までもう少しでした。

子供たちの人気を集めたのが、カップヌードルの早食い。お昼時ということもあり、食事代わりに参加する子供や汗を流しながら食べる子供などさまざま。参観者からはたくさん声援が飛び交っていました。

八塩元気クラブでは「げんきまつりは、会員個々が協力して行っている手づくりのイベント。今後は、内容をさらに充実し、冬のイベントとして定着していきたい」と意欲をみせています。



わが家の
アイドル☆

宿・遠藤 理奈ちゃん
(H7・3・1日生まれ)
お父さん・育 英さん
お母さん・和佳子さん

「犬や猫などの動物の絵本が大好き。丈夫に元氣よく育ってほしい」とお母さんの和佳子さん。

★ステキな写真盾が当たる★

広報クイズ

どんどん応募してね

問 株式会社黄桜の里の「おやつ
の駅」で作られているママドーナ
ツ。1個の値段は？

①30円 ②40円 ③50円

(ヒントは先月号にあり)

▼官製はがきに答え、応募者の住所・氏名・年齢・身近な話題など、なんでも結構ですので、書いてお出してください。▼宛先／東由利町老方 東由利町役場広報係宛▼締切／4月15日(当日消印有効)▼正解者の中から抽選で記念品をプレゼント。

▼先月の正解は③50人でした。応募してくれた10人が全員正解、抽選で次の5人に写真盾をプレゼント。遠藤信子さん(小倉)、畠山昭徳さん(船橋市)、鈴木幸さん(宿)、小笠原藤一さん(土場沢)、小松初子さん(八日町)。応募ありがとうございました。たくさんの応募まってま〜す。



大庭 司さん
(蔵・19歳)

(株)大沼組勤務
血液型・A型

昨年四月に株式会社大沼組に勤務して丸一年を迎えた司さん。県道仁賀保矢島館合線、館合バイパスの工事現場で、測量や丁張作業を担当しています。「高校時代のアルバイトがきっかけで建設業へ。今年は、仕事を覚えることが目標」と意欲的。休日は、町内の同級生たちとドライブに出かける日が多いそう

です。小、中、高校と野球一筋の彼が、今、夢中になっているのがバスケットボール。高校時代に友達から誘われたのがきっかけで、今では、町のバスケットボールクラブに所属、毎週水曜日は、練習に出掛けます。「クラブ員のほとんどが経験者。初心者の私は、なかなかうまくできなかったが、練習していくうちにうまくなっていくのがわかる。特にシュートを決めたときは最高の気分。ストレス解消にも最適」と話すスポーツマンの司さんでした。

次は、宇戸坂の出原聖紹くんにリレーします。

東由利の文芸

せせらぎ句会(三月句会)

皺の手を児に誘はれし雛の前
誕生の子は片言の雛まつり
雛祭り祖先のしみをそのままに
風物詩白魚かなし四ツ手網
山笑う話のつきぬクラス会
啓蟄や大トンネルのまだつづく
雪折れの神の木もあり村社
春めきてあふれる声や牛の市
柚の春木口匂える杉丸太

小野石路子(上里)
阿部 俊子(横渡)
工藤 武雄(山崎)
小松 忠正(下通)
小笠原トミ(蔵新田)
大庭喜右エ門(舟木)
小松 徳蔵(湯出野)
佐藤 正義(湯出野)
遠藤トミ子(小倉)

折り込みにどきりと春の飛び込みぬ
胃カメラの結果明るし春一日
古雛の思い出語る叔母笑顔
読みかえすふる里便り梅ひらく
一早く土手に顔出す路の臺
寺霞み老ゆることなき六地藏
宿題をはなれ少年野に遊ぶ
山々を遠く絵にする春霞
少年等旅立つ船の沖かすむ
雲一朶影を曳きゆく野に遊ぶ
釣人のにわかに動く夕霞
目覚めたる野山一望かすみけり
遠峰を青く重ねて春かすむ

小笠原亮子(蔵新田)
阿部 ナミ(蔵)
菊地 常作(湯出野)
高橋民治郎(袖山)
吉川 葉子(時雨山)
高橋ヒデ子(横渡)
阿部 澄子(蔵)
嶽石 レイ(五海保)
小松 女沙(下小路)
小松 正昭(家ノ下)
嵯峨 義之(中通)
小野 貞子(蔵新田)
小松順之助(中通)

今年の1年生は50人

4月に小学校に入学する児童は、男25人、女25人です。“春を待つ50人”を紹介します。(敬称略)

八塩小・18人(男8人、女10人)

自治会	児童氏名	保護者
山崎	大場 寿人	隆
宇戸坂	小松 周平	義典
葎沢	佐藤 大地	幸輝
石高	佐藤 寿幸	徳定
新沢	仙道 哲也	孝一
五海保	高橋 未来	一心
石高	長谷山 祐也	肇
泡ノ瀨	横山 春希	秋志
館合新田	小野 奈央	武博
久保	鍛崎 綾香	和博
葎沢	佐藤 保奈美	正雄
館合新田	佐藤 恵美	森雄
松柴	高橋 美帆	覚
五海保	嶽石 温子	八郎
山崎	嶽石 なつき	伊久雄
下小路	畑山 早希	豊隆
館合新田	畑山 知美	悦也
泡ノ瀨	横山 沙緒里	操

高瀬小・21人(男10人、女11人)

自治会	児童氏名	保護者
野田	阿部 大輝	法久
岩館	阿部 昌之	徳夫
蔵	伊東 圭介	一夫
蔵新田	小野 皓大	智
上里	小野 崇仁	弘彦
上里	小野 結太	利彦
蔵新田	小野 雄太	一
上里	小野 吉樹	浩人
十二ノ前	佐藤 和幸	賢一
新町	長沼 将馬	久利
蔵	石渡 真由子	次雄
蔵	遠藤 麻子	博秀
小倉	遠藤 香葉	基実
横小	遠藤 真美	武男
上里	小野 朋子	君悦
十二ノ前	小松 圭子	君栄
中通	佐藤 さやか	実
新町	佐藤 葉奈	久志
湯出野	長谷山 未梓	光夫
茂沢	畠山 愛美	守
上通	畠山 愛美	守

大琴小・11人(男7人、女4人)

自治会	児童氏名	保護者
大琴	阿部 貴成	一久
大琴	阿部 武雅	寿真
宿	小野 雄平	眞省
大台	木島 一樹	隆
大台	木島 大地	静八
大琴	佐々木 駿人	忠信
下吹	畑山 和則	照和
大琴	浅田 麻理	奈里
大琴	柏谷 美里	乃彦
大琴	佐々木 崇成	靖
沼	鈴	靖

三二 広報ギャラリー 1

第35回(平成5年)秋田県美術展覧会入選作品



石綿沙織さん
(西目高3年、4月から秋田市内の会社に勤務)

小さいころからマンガや絵を書いたりするのが好きだった私。中学の美術の先生から勧められてデザインに取り組み始めました。この作品は、高校に入学し

たころの作品で、テーマは、環境問題。地球を虹でかこみ、矢印は時計を意味します。「ずっときれいな地球でいてほしい」との願いを込めて作りました。鳥、花などの資源がいつまでもこのままのきれいな姿でいてほしいと思います。

ハイスクール○日記

これからの1年



下郷分校3年
小松 育充くん

平凡に高校生活を送る中、時間がたつのが早く、もう三年生になってしまいました。今まで、それなりに勉強したり、部活動をしたり、自分の好きなことをしたりして毎日を過ごしてきましたが、三年生になってからは、将来に向けて少し計画的に過ごさないといけないと思っています。

この二年間、卒業していった先輩たちを見てきましたが、やはり不景気の中、就職することがいかに厳しいものなのかを実感しています。早く状況が変わらないかとも思ったりします。けれども、残りの高校生活では納得のいく毎日を送り、学業にも精進し、将来に向けての土台を造っていかうと思っています。そして、卒業という終止符を打つにあたっては、悔いのない高校生活であったと自分が思えるようにしたいと思っています。

4月→データ東由利

〈2/1~2/29〉

住民基本台帳人口 () は前月比

■男	2,658人 (△9)
■女	2,808人 (1)
■計	5,466人 (△8)
■世帯数	1,409戸 (△1)

() は1月からの累計

・出生	1人(4)	・死亡	10人(23)
・転入	14人(19)	・転出	12人(17)

■火災出動	0件(0)
■救急出動	8件(16)
■交通事故	0件(0)
・死亡	0人(0)
・傷者	0人(0)
■飲酒運転	0人(0)
■酒気帯び	2人(2)

カレンダー 4月の行事

2	保育園入園式
4	小学校入学式
5	中学校入学式
6~15	春の交通安全運動
7~13	春の火災予防運動
22	町観光協会総会
23	愛育会総会
26	自治会長会議

東由利

郷土の野草

No.134



センボンヤリ

(キク科)

文・写真 小松忠正

日本全土の比較的明るい雑木林や樹下の土手(写真・湯出野)に生える多年生の小がたの草で、葉は根出葉で三〜五枚、倒卵状楕円形で不齊の欠刻があります。春秋二回花を咲かせる珍しい草で、春の白色の舌状花に対して、秋は花茎の長い閉鎖花(花冠が開かず自花の雌雄蕊の間で受粉、受精する花)のある頭上花を多く出します。和名はこの閉鎖花が大名行列の時、先頭を行く槍持ちが持つ、たくさんの毛槍に似ているということでのこの名があるといわれます。

戸籍の窓口

(2/21~3/20届出)

●お誕生おめでとう

2/27 佐々木 良 和ちゃん (良光 板戸 和美)

●ご結婚おめでとう

2/26 畠山 知也さん (中通 石垣 洋子さん) 由利町

●ごめい福をお祈りいたします

2/22 遠藤 熊雄さん (48・喜恵子・夫 新処)
3/6 佐々木君三さん (80・ナミ・夫) 大琴
3/9 高橋とき子さん (44・コウ長女 下小路)
3/14 佐々木フサノさん (82・日出夫・母) 大琴
3/15 千葉徳左エ門さん (86・ナオミ・夫 島)
3/17 渡辺 クラさん (79・誠・母) 田代
3/19 畠山フチエさん (76・治雄・妻) 大吹川



ストック



小松茂穂さん(新町)のハウスでは三月中旬、ストックが満開。卒業式などの花束によく使われるとか。きれいなピンクが印象的でした。

(撮影、広報担当)

まごころ

町社会福祉協議会に、佐々木英徳さん(大琴)、小松久安さん(松柴)、遠藤喜恵子さん(新処)からご芳志が届けられました。

広報送付の謝礼として、遠藤莊助さん(函館市在住、小倉出身)、畠山竹志さん(本庄市在住、茂沢出身)、小松久純さん(千葉市在住、下小路出身)、大友和子さん(塩竈市在住、土場出身)、阿部功さん(埼玉県在住、横渡出身)、木島晶子さん(本庄市在住、蔵新田出身)から金一封が届けられました。

ほっといき

「使用済みのテレホンカード集めてるんだけど…」と理容師さんからお願ひされたのが、三月中旬。なんでも「ガン治療などで頭髪がぬけた人々に髪を無償提供する全国的なボランティア活動のため」とのこと。東京都理容組合青年部が全国に呼びかけ、この活動に秋田県理容組合青年部が賛同、各市町村にも要請がきたというお話し。

使用済みテレホンカードのようにして役立つかは定かでないものの、特に不便を被るわけでもなく、これが誰かの役に立つのならうれしい話。「とこやさんにはテレカ持参」を合言葉にみなさんも協力してみてはいかがかな。